安全の確立を基礎に
JR連合への総結集と
政策課題の解決･前進を図り
JR産業の持続的成長と
組合員･家族の幸せを実現しよう

JR連合

JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

https://www.jr-rengo.jp

日本鉄道労働組合連合会
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル9階
TEL (NTT) 03-3270-4590
FAX (NTT) 03-3270-4429
1部20円（但し組合費に含む）
●発行者／上村良成 ●編集者／宮野勇馬
facebook JR連合
(旧twitter) JR連合

労働協約改訂交渉
～組合員から寄せられた声をもとに～

本年度もＪＲ東海ユニオン、ＪＲ西労組、ＪＲ四国労組、ＪＲ九州労組、貨物鉄産労は、労働協約改訂交渉に取り組み、組合員に直結する労働条件について、多くの成果を引き出し、妥結した。主な成果は、下記のとおり。

２０２６年度労働協約改訂交渉の成果

《ＪＲ東海ユニオン》
① 短日数勤務制度の対象拡大
② 昇格筆記試験における専門科目の一部廃止
③ 職名の新設
④ 賃金控除等に関する協定等の条文の改訂
⑤ 基本協約等の条文の改訂
⑥ 他社エリア勤務の独身者等への帰省交通費支援制度の新設
⑦ 深夜業緩和制度の対象拡大
⑧ 確定拠出年金（ＤＣ）の掛金月額の引上げ
⑨ 高性能防雨具の新設
⑩ 一部の用務旅行時の指定席利用拡大
⑪ 即賞の支払方法の変更
⑫ 在宅勤務実施後の実績報告の廃止

《ＪＲ西労組》
① 退職時の感謝状及び記念品の贈呈対象者の見直し
② 勤続表彰等対象者等の見直し
③ 育児に関わる制度等の見直し
④ 年次有給休暇の付与日数の見直し
⑤ 保存休暇の見直し
⑥ 有給休暇の見直し（忌引休暇、り災休暇、永年休暇）
⑦ 無給休暇の見直し（分娩休暇、ボランティア休暇）
⑧ フレックスタイム制の取扱いの見直し
⑨ 人事諸制度の見直しに向けた具体的な検討の開始（口頭）

《ＪＲ四国労組》
① 55歳以降の基本給見直し（基本給支給率減額撤廃）
② 保線特殊業務手当の新設
（「マルタイ業務」「レール削正業務」の支給額引上げ）
③ 準組合員（パートナー・サポーター社員）の基本賃金引上げ
④ 準組合員（契約社員）への扶養手当支給
⑤ 在宅勤務の対応箇所拡大
⑥ 年次有給休暇付与日数等の見直し
⑦ 保存休暇の適用範囲拡大
⑧ 障がいサポート休暇の新設
⑨ 従業員紹介採用制度（リファラル採用）の新設
⑩ 持家促進施策の検討を深度化

《ＪＲ九州労組》
① 積立保存休暇及び保存休暇の使用事由の見直し
② 昇進試験に係る勤務の取扱いの見直し
③ 確定拠出年金（ＪＲ九州ＤＣプラン）の見直し
④ フレックス勤務及び単身赴任者自由席特急券代用証等に関する変更

《貨物鉄産労》
① 家族手当の契約社員への適用拡大
② ライフサポート休暇の付与日数の取扱いの変更
③ シニア社員の期末手当の取扱い変更
④ 契約社員を対象とする社員採用試験の受験資格の見直し

第14回安全シンポジウム

ＪＲ産業全体の安全意識をさらに高めるために

10月21日、ＪＲ連合は東京都内で第14回安全シンポジウムを開催し、会場にはＪＲ連合に加盟する単組が集まったほか、連合、交運労協、友誼産別、ＪＲ各社を来賓としてお招きし、さらにＷＥＢ参加を含めた総勢約２５０人が参加した。

本シンポジウムでは、「ＪＲ産業全体の安全意識をさらに高めるためには」をテーマに掲げ、グループや協力会社を含め、より一層安全なＪＲ産業をつくる決意を共有した。そして、課題提起、基調講演、パネルディスカッションを通じて、ＪＲ連合の安全に対する向き合い方を再認識するとともに、改めて安全意識の向上と浸透に必要な知見を得て、引き続き安全の取り組みを最重要課題と位置づけ、運動を進めていく決意を新たにした。



ＪＲで働くすべての仲間に世界で最も安全なＪＲ産業の実現をと要請する上村会長

冒頭、上村良成会長は主催者を代表し、「福知山線列車事故以降、安全は会社だけでつくるのではなく、現場で働く組合員自身の手でつくるのだ、という強い思いで安全性向上に努めてきた。しかし、今なお死亡労災や危険な事象が後を絶たず、危機的な状況にある。社員の命を守れない会社に、お客様の命は守れない。世界で最も安全なＪＲ産業の実現に向け、積極的な参画を要請する」と挨拶した。

第1部では宮野勇馬企画局長から、策定中の「安全指針（２０２６改訂版）」の報告を行い、積極的な活用を要請した。

第2部では、大原記念労働科学研究所松田文子特別研究員から「安全に関する取り組みの効果的な教育方法について」と題して、基調講演をいただいた。労使一体となって取り組む必要性や、現場の真の声を集めることができる労働組合の必要性・重要性について、改めて認識を深めた。


松田特別研究員


坂元事務局長（航空連合）

第3部のパネルディスカッションでは、パネリストに航空連合坂元慎平事務局長、ＪＲ東海ユニオン吉本大輝業務部長、ＪＲ西労組中村康雄業務部長、新生テクノス労組山田知洋執行委員長に加え、松田特別研究員とともに、多くの労災がグループ労組や協力会社で発生していることを踏まえ、ＪＲ産業全体の安全意識をさらに高めるために労働組合が果たすべき役割について、議論を深めた。

最後に、中村鉄平副会長（ＪＲ四国労組執行委員長）が、安全の主役としての労働組合の重要性を述べ、閉会した。

安全意識をさらに高めるためにパネルディスカッションで熱い討議

交運労協第42回定期総会
持続可能で活力ある交通運輸・観光サービス産業の実現へ

交運労協は10月7日、第42回定期総会を開催し、向こう1年の活動方針を決定した。ＪＲ連合からは各単組から総会代議員、地方交運労協代表者が出席した。総会議長団にはＪＲ連合より吉田春菜執行委員が選出された。

冒頭、挨拶に立った池之谷潤議長は、令和8年能本地震や千葉県豪雨災害等の被災者へのお見舞いを述べるとともに、国際情勢に伴う物価高騰、労働時間規制緩和への危機感等を表明した。また、２０２６春季生活闘争では3年連続５％台の賃上げが実現できた一方で、原油価格動向への注視が必要と指摘した後、政治力強化や財政基盤確立等の課題を挙げ、産別の枠を超えた組織的取り組みを呼びかけた。

来賓には、連合神保政史事務局長、厚労省・国交省幹部、政策推進議員懇談会の辻元清美会長が駆けつけ連帯の挨拶を述べた。

また、令和8年熊本地震の被災地に対し、交運労協からの見舞金と各組織から募ったカンパ金が九州地方交運労協吉田祥司議長（ＪＲ九州労組中央執行委員長）へ手交された。

事務局による報告・各議案の提起後、吉田九州交運労協議長がカンパへの謝意と被災地の現状について、石川敏也産業政策局長が運賃・料金制度の適正化や通学定期に係る事業者への支援、ＪＲ二島・貨物会社の経営自立について、鉄構労櫻井高志書記長が新幹線建設推進や建設現場におけるカスハラ対策等について発言した。交運労協の蒔田純司事務局長が関係構成組織と連携しながら引き続き政策実現に全力で取り組む旨を答弁した後、全議案が満場一致で承認された。

役員改選では、上村副議長・福森敬和事務局次長・今井孝治幹事・大野友和幹事がそれぞれ再選され、最後は池之谷議長の力強い団結がんばろうで締めくくった。


石川産業政策局長


櫻井鉄構労書記長

令和８年熊本地震
被災地支援 救援ボランティアに参加
～ 復旧・復興に取り組む熊本地本を激励 ～

７月28日に発生した令和８年熊本地震を受け、連合が９月から救援ボランティアの派遣に取り組んでいる。第４クール（10月４日～10日）にはＪＲ連合にも参加要請があったことから、住吉一家労働政策局長とＪＲ西労組金沢地本の沓掛勇介執行委員長が参加した。

両名は連合の取り組みへの参加に先立ち、ＪＲ九州労組中央本部と熊本地本を訪れ意見交換を実施し、ＪＲ九州の被災・復旧状況を再確認するとともに、ボランティア活動に取り組む八代市内の被災・復旧状況を確認した。また、沓掛委員長は、令和６年能登半島地震において全国の仲間から支援を受けた事に謝意を示し、「当時の恩返しの思いで活動に取り組む」と決意を述べた。

連合の取り組みでは、八代市ボランティアセンターと連携しながら被災者のニーズに沿った活動を実施し、倒壊した壁や破損した家具の搬出などに取り組み、１週間の活動を完遂した。

ＪＲ連合は、引き続き関係者との連携を強めながら、被災地の支援に取り組むこととしている。


（右から）住吉・沓掛両氏と熊本地本今永委員長・横林副委員長・井手書記長・中村青女委員長

鉄構労第63回定期大会
持続可能な組織運営に向けた運動方針を確立



鉄構労第63回定期大会

鉄道運輸機構労働組合（鉄構労）は9月4日、横浜市において、第63回定期大会を開催し、向こう1年間の運動方針を確立した。昨年10月のJR連合加盟以降初の開催となった本大会は、来賓として交運労協蒔田事務局長、JR連合から上村会長、今井事務局長、石川産業政策局長が参加した。

冒頭、執行部を代表して挨拶に立った大野友和中央執行委員長（JR連合特別執行委員）は、「新幹線を取り巻く状況が停滞する中、職場と雇用を守るべくJR連合への加盟を決断した。共に活動する中で政治力の高さを実感した」と1年間を振り返った。また、全職員に波及した賃上げ獲得の成果を強調し、引き続き地域格差の解消や出向者の待遇改善等に取り組むとする所信を述べ、闘達な討議を呼び掛けた。

JR連合を代表し上村会長からは、産別移籍の決断に改めて敬意を表するとともに、安全確立、新幹線ネットワークの構築・計画推進に向けた取り組みなどについて言及し、より一層の連帯を要請した。

議事では、組織強化や労働諸条件の維持・改善、活力ある職場の構築、将来展望の確立等の運動方針案が提起され、代議員からは、諸労働条件改善、要員需給、福利厚生、産別加盟の意義に関する意見・要望が出された。松本敬太郎書記長を中心とした執行部答弁の後、すべての議案が採択された。

役員改選では、鉄構労運動を牽引した倉持周兵中央執行副委員長や松本書記長、稲益啓志郎書記次長らが退任し、再任された大野中央執行委員長をはじめとする新体制を確立した。

〈新三役〉
中央執行委員長　大野　友和
中央執行副委員長　小西　善晃
書記長　櫻井　高志

青年・女性委員会第35回定期総会
共につき進もう ～全国の仲間と明るい未来へ～



JR連合青年・女性委員会は9月12日、愛知県内において第35回定期総会を開催した。総会には全国各地から総勢約100人の青・女組合員が参加した。

冒頭、高杉恭平議長（JR西労組）は主催者挨拶に立ち、安全指針を活用した安全の向上、地協活動の強化による組織拡大、組織力向上の必要性を訴え、若手の声を運動に反映させ、変革と団結を推進する決意を述べた。

JR連合からは上村会長、住吉労働政策局長、吉田春菜執行委員が出席し、代表して上村会長は、活発な青年・女性活動がJR連合運動の大きな強みであると、連帯の挨拶を行った。

経過報告・新年度活動方針案の提案後、11人の総会委員から、安全確立、組織強化・拡大、労働環境改善、ユースラリーの継続、SNSでの情報発信強化、男女平等参画等に関する意見が出された。

幹事会答弁を経て、石川和磨事務長（JR東海ユニオン）が総括答弁を行い、活動方針は満場一致で承認された。

役員改選では、高杉議長、石川事務長を再任し、新たに鉄構労から幹事を迎えるなど新役員体制が満場一致で承認された。

最後は高杉議長が団結がんばろうで締めくくった。

全国から定期総会に結集した青年・女性の仲間

《2026年度新役員体制》
議長　高杉　恭平　再
事務長　石川　和磨　再
幹事　杉村　輝斗　新（JR北労組）
幹事　伊藤　良亮　再（イーストユニオン）
幹事　菅間あさ希　新（JR東海ユニオン）
幹事　池田　遥香　新（JR西労組）
幹事　角南厚志郎　再（JR四国労組）
幹事　濱崎　由伸　新（JR九州労組）
幹事　小林優太郎　再（貨物鉄産労）
幹事　鈴木　菜摘　新（鉄構労）

役員紹介



ジェイアール・イーストユニオン（イーストユニオン）
中央執行副委員長
松山　修一　さん

イーストユニオンの松山です。JR東日本新鉄道労働組合に在籍していましたが、昨年の組織合流により中央執行副委員長を仰せつかりました。私は昨年からエルダー社員として、車両清掃会社に出向しています。毎日お客さまに綺麗な車両を提供できるようみんなで頑張っています。

私は小さいころから鉄道が好きで、時刻表を眺めながら列車に乗って長距離を旅したいなぁとの思いがありました。就職して夏休みに1週間くらいの休日ができたので、実行に移すことにしました。課題はあまりお金を使わずに何処まで行くことができるかです。察しがつく方はいるかと思いますが、「青春18きっぷ」の活用です。

1990年代はまだ夜行列車が幹線を中心に走っていました。特に夏休みや冬休みには、夜行の臨時快速列車が増発されていましたので、この列車を活用した旅行行程を組みました。今では難しいと思いますが東京から西鹿児島まで丸2日かけて、区間快速を含む普通列車を乗り通しました。お尻が痛くなりましたので、空いているのに立ちっぱなし、そして調子が良くなったら座る、を繰り返していましたが、お尻への影響は大きかったことが記憶に残っています。

夜行快速はハイシーズンでしたので自由席含め満席で座れません。客室の床や荷物置場で仮眠した覚えがあります。その後も別方面にも挑戦してみました。道中台風の来襲で列車が前途運休となり、そこで計画を練り直しということもありました。今では体力的にも厳しくなり、また家族の介護なども生じて、まとまった時間が取れなくなりました。皆さんも何かにチャレンジするなら身軽なうちにと思います。

イーストユニオンは、新たに生まれ変わって、みなさまのお力添えもあり、組織拡大に邁進しています。

今後も変わらぬご支援をお願いします。

地域活性化ボランティア活動（山梨県早川町）
― 山梨県早川町から「特別感謝状」授与 ―

9月26日～27日、2008年から交流のある、山梨県早川町での地域ボランティア活動を早川町役場と連携して実施した。

同日に開催された「早川町町制施行70周年記念式典」では、長年、保地区においてボランティア活動を行ったことに対して深沢肇早川町長から「特別感謝状」が贈られ、JR連合を代表して上村会長が受け取った。

今回も集落の山側を囲む獣害防止柵周辺の草刈りや柵に絡みついたツル取り、用水路周辺の整備、耕作放棄地の整備、公民館近辺の環境整備などを行った。作業終了後は、地元保地区の皆さんとの昼食懇談会を実施し、特別感謝状を授与されるに至る昔話に花を咲かせ、交流を深めることができた。

JR連合は、JR産業が社会の支えがあって成り立っていることを今一度認識し、引き続き「JR連合ビジョン」で掲げる、社会・地域・他産業・労働組合の仲間とつながっていく。

ヤマちゃん
なかのはやみ（NO341）



横のつながりを充実させ組織強化を
各地協で機関会議（関東・中国・九州）

JR連合関東地協、中国地協、九州地協が相次いで定期委員会・総会を開催した。

関東地協は、東京都内で第35回定期委員会を開催し、挨拶に立った相良夏樹議長（JR東海ユニオン書記長）は、安全の確立、組織、政策実現に向けた政治活動について課題提起を行った。とりわけ例年実施しているレク活動による組織強化・拡大の効果を発揮するとともに、民主的で組合目線に立ったJR連合の良さを伝えていくと決意を述べた。


関東地協第35回定期委員会

中国地協は、周南市内で第34回定期総会を開催し、石松大介議長（JR西労組広島地本執行委員長）は、安全の確立、組織の強化・総結集、政策課題解決、労働条件向上について、これまでの取り組みと運動の方向性を示した。



中国地協第34回定期総会

九州地協は、福岡市内で第35回定期委員会を開催し、吉田議長（JR九州労組中央執行委員長）は、熊本地震関連、安全の確立、JR連合への総結集、労働条件向上の取り組みに触れるとともに、グループ労組の地協・県協への参画やさらなる運動への理解を訴えた。

JR連合からは上村会長をはじめとする役員が参加し、日々の取り組みに敬意を表するとともに、地協活動の必要性や、地域での連携がJR産業全体の発展に向けて大きな力となっていることへの謝辞を述べ、引き続きJR連合一体となって取り組む決意を語った。


九州地協第35回定期委員会

各地協とも、安全の確立を第一義とし、地協内での横のつながりを強化し、あわせて民主化の取り組みにも連動させ、組織強化を図っていく活動方針を決定した。

【訂正とお詫び】

本紙第702号2面「東海地協第35回定期委員会」記事の写真で誤った掲載がありました。関係する皆様にはご迷惑をおかけいたしました。正しい写真は以下のとおりです。訂正しお詫びいたします。

なお、ホームページ上ではすでに正しい写真で公開しています。



こくみん共済 coop NEWS

「たすけあいの輪をむすぶ」
こくみん共済 coop は、
次のステージへ


公式キャラクター
ピットくん

たすけあいの輪をむすぶ
こくみん共済〈全労済〉
全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。